

SYAKAIKA

受賞作品 | 社会科部門

〈総評〉

今年の作品では、Word や Excel、デザインソフトなどのデジタルツールを使って、見やすく・きれいにまとめた作品がたくさん見られました。文字の大きさや色を工夫したり、レイアウトにこだわったりと、「伝わる形」を意識している人が多く、とても感心しました。

内容では、歴史の出来事や戦争、震災などについて調べた作品が多く見られました。すでに結果や結末がわかっているテーマでも、自分の言葉で整理してまとめようとする姿勢がよく伝わってきました。中には、実際に博物館や資料館などの専門の場所に足を運んで調べた作品もあり、インターネットや本だけで調べた作品と比べて、情報の深さや説得力に大きなちがいがありました。

これからは、まだ誰も調べたことのないことを見つけて調べてみる、あるいは大人でもなかなか実行できないことに子どもらしい発想で挑戦してみる。そんな新しい研究がもっと増えていくことを楽しみにしています。



文部科学大臣賞

バス停誘致の仕組みと課題
祖父のためにバス停を誘致するには
東京都 江戸川区立篠崎第二中学校 2年
三木 颯祐



子どもの文化・教育研究所 理事長賞

寒河江まつり 京参乗りの伝統
～僕の3年間の体験と文化の継承～
山形県 寒河江市立寒河江中部小学校 6年
角田 遼磨



日本社会科教育学会 会長賞

雪どけ水はどこへいく
東京都 白百合学園小学校 3年
綿貫 瑠美



中央出版株式会社 社長賞

24時間ぼうさい体けん
東京都 白百合学園小学校 3年
花淵 奏



優秀賞

ぼくがお札にのるには
埼玉県 さいたま市立木崎小学校 3年
庄司 賢人

まちの「音」を考える
～金沢のまちの「音」って？～
石川県 国立金沢大学附属中学校 3年
山口 翔大

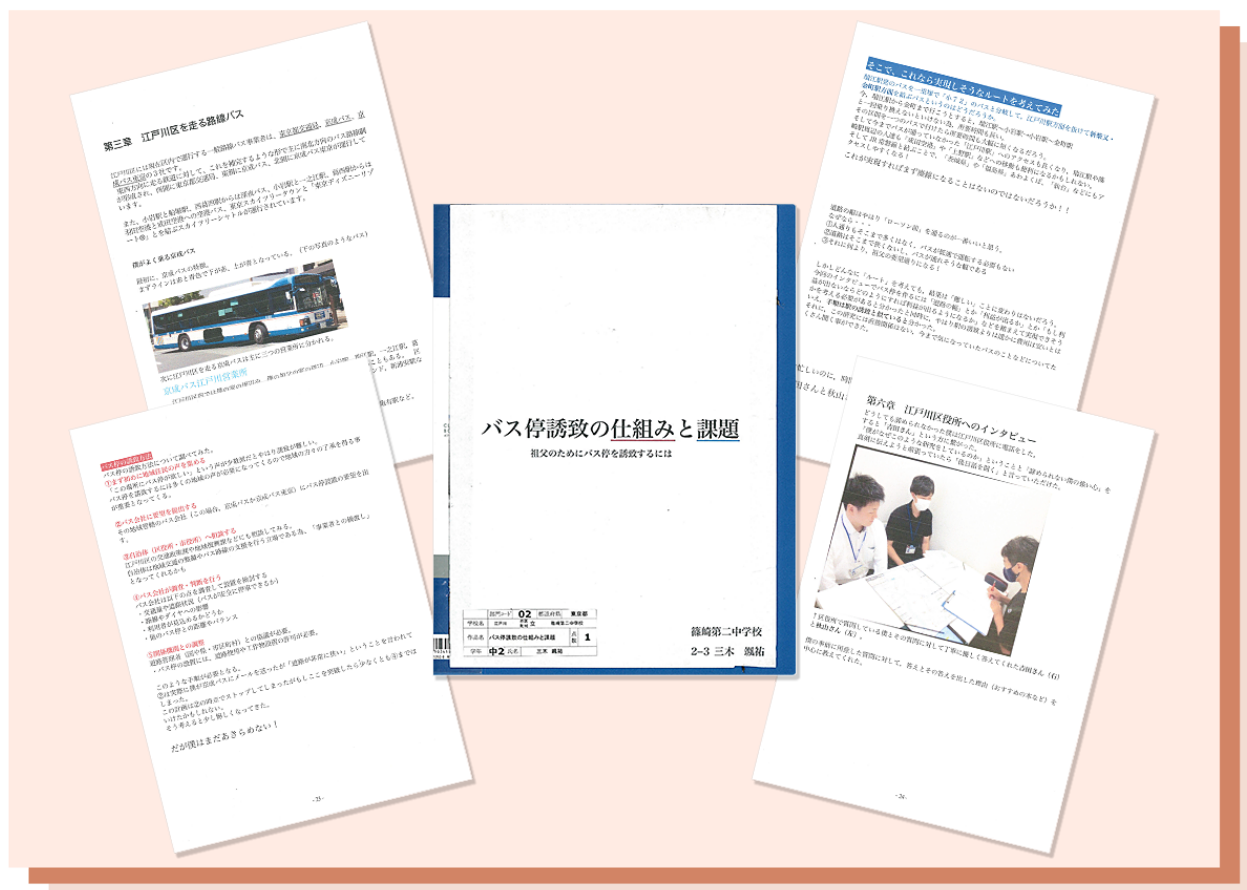
千葉県の旅
～54市町村完全制覇！！～
2022 - 2025

千葉県 国立千葉大学教育学部附属小学校 5年
鹿島 華菜

文部科学大臣賞

バス停誘致の仕組みと課題 祖父のためにバス停を誘致するには

三木 颯祐 | 東京都 江戸川区立篠崎第二中学校 2年



〈選考理由〉

普段からバスが大好きで、「自分ほどバス愛が強い人間はいない」と話す颯祐さん。

おじい様の家の近くにバス停を誘致するという目標に向けて、研究を始めました。

バス停やバス路線の候補地を自分の足で確かめたり、バス会社や区役所に問い合わせをしたりと、少しずつ目標に近づいていく姿がとても印象的でした。

提案が通らなくても、「この場所なら」「この路線なら」と視点を変えながら何度も挑戦する姿勢は、研究を進めるうえで非常に重要であり、誰にでもできることではありません。

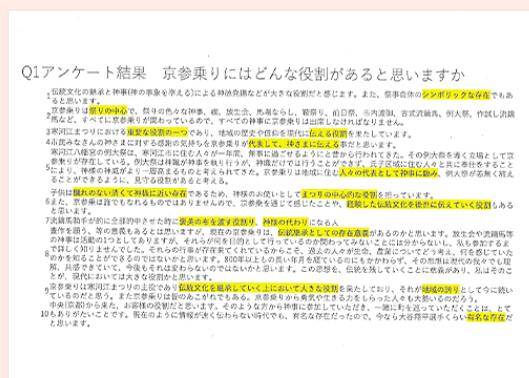
また、提案が通らなかった理由を踏まえて、考え方が少しずつ鋭くなっていく点も魅力的でした。

バス停の候補地やルートを考える過程では、颯祐さんの豊富な知識が活躍しており、バス愛の強さを感じることができました。研究の中で新たに生まれた疑問や得た知識がよく整理されており、資料としての完成度も高く、とても読みごたえがありました。

公共交通機関の誘致という難しい目標にも、前向きに取り組み続けた姿勢がすばらしかったです。この挑戦する気持ちを大切に、これからもさまざまなことに挑戦してってください。

寒河江まつり 京参乗りの伝統 ～僕の3年間の体験と文化の継承～

角田 遼磨 | 山形県 寒河江市立寒河江中部小学校 6年



〈選考理由〉

山形県寒河江市の寒河江まつりという祭事で「京参乗り」という役割を3年間務めた遼磨さん。

実体験を通して京参乗りの重要性を強く感じる一方で、周囲の認知とのギャップに驚きました。そのため、より多くの人にその存在や役割を知ってもらうために研究を始めました。

多くの人が体験したことのない祭事の裏側や、準備段階で関わっている人々についても詳しくまとめられており、非常に興味深く読むことができました。

地域のお祭りをイベントとして捉える人が増えている中で、神事であるという本来の性格を忘れずに、京参乗りという役割の意味を他地域の祭事と比較しながら端的にまとめており、説得力がありました。小学生のころから祭りを「作る側」として関わってきた遼磨さんだからこそ生まれた研究だと思います。

また、後半のアンケート結果では、産業的・経済的な側面ではなく、伝統行事への参加形態の変化という観点から、地方の少子高齢化という社会問題にも切り込めており、視点の鋭さが光ります。

今後は、遼磨さんだからこそ見えてくる地域の課題や、高齢化への新たな取り組みなどにもぜひ目を向けてみてください。さらに深みのある研究につながると思います。

日本社会科教育学会 会長賞

雪どけ水はどこへいく

綿貫 瑠美 | 東京都 白百合学園小学校 3年



〈選考理由〉

冬にスキー、春にグランピングで同じ高原を2度訪れた瑠美さん。

冬にはたくさん積もっていた雪が、春にはどこへ行ってしまうのかという疑問から研究を始めました。

雪どけ水と川の仕組みや、高原と川の位置関係、季節ごとの川の変化、川から海へ流れ込む場所など、多面的な視点から雪どけ水の行方を調べていました。

思い当たる場所に実際に足を運び、自分の目で観察したり、現地の人に話を聞いたりする姿からも、研究へのこだわりが伝わってきて印象的でした。

また、時期を変えて同じ川を観察したり、上流・中流・下流で比較したりと、対照実験のような工夫をこらした観察が効果的に行われており、写真からも変化が明確に伝わりました。

さらに、「川と海の違い」という新しい関心が生まれている点からも、瑠美さんの探求心の強さを感じます。ぜひこのテーマをさらに深めていってください。研究の続きがとても楽しみです。

中央出版株式会社 社長賞

24時間ぼうさい体けん

花淵 奏 | 東京都 白百合学園小学校 3年



〈選考理由〉

実際に震災が起きたことを想定し、24時間の被災シミュレーションを行った奏さん。

防災グッズを“使ってみる”のではなく、それらを用いて「生活をする」ことを目標にしたレポートとなっています。昨年、防災グッズの使い方を学んだ経験を活かし、電気・ガスのない生活への備えが非常に周到で、興味深い内容でした。暗くなった後にランタンを置きっぱなしにすると、必要なときに見つからずに困る。両手を使ってドライシャンプーをすると、明かりの確保が大変になる。こうした小さな「困りごとの種」は、被災時を想像するだけでは見落としてしまいがちなもので、実際に体験したからこそ得られた、非常に意義のある気づきだと思います。

また、電池や飲料水の消費量にも注意を払いながら生活しており、単なる体験にとどまらず、実際に被災したときに生き抜くことを想定した取り組みになっていた点も、非常に良い視点でした。昨年の研究で学んだ防災グッズについても、繰り返し使用したり長時間使ったりといった新たな条件を加えることで、より多くの課題に気づくことができている、研究の深まりが感じられました。

これからも、これまでに得た知識を少しずつ更新しながら、新しいことにどんどん挑戦していただきたい。